

グリコの旅

ゆったり・南部アフリカ（南アフリカ・ザンビア・ジンバブエ・ボツアナ）10日間

江崎友子

酷暑と言われた日本の夏を一寸抜け出して冬の南部アフリカに7月23日、羽田より出発。シンガポール経由（7時間）ヨハネスブルグへ（10時間半）。時差－7時間。メンバーは2組4人です。最初から催行決定していたのですが、テーブルマウンテンへのロープウェイが保全のための運休日にあたり「代替え観光はありますが、いけますか？」と問い合わせがありました。「行きます」と答えたのが私たちと、もう一組だったのでしょう。添乗員、現地ガイド、運転手のスタッフが3名、初日と最終日は55名乗りバスに7名でゆったりとした旅です。一つ目の国、南アフリカのヨハネスブルグ到着後バスで行政区のプレトリアへ。



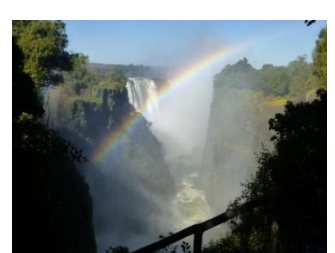
ジャガランダの並木道 中国の偉い人？が来ているらしい マンデラさんの大きな像の前で
プレトリアは10月になると世界3大花木のジャガランダが美しく咲き、カレンダーで見た私の憧れの地でした。治安の悪いところもあるそうです。中国とアメリカの大使館の大きさにびっくりしました。



ヨハネスブルグ郊外のライオンパークへ。ライオンや豹の子どもと写真を撮りますが、眠くて堪らない動物たち・・・ジープに乗って園内を一周。珍しい動物たちをたくさん見ました。この時はそれなりに感激したのですが、後で行ったチョベ国立公園の感動とは比較になりません。

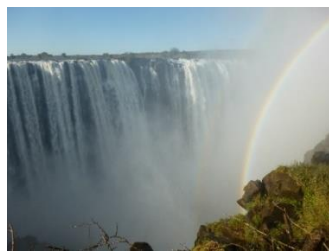
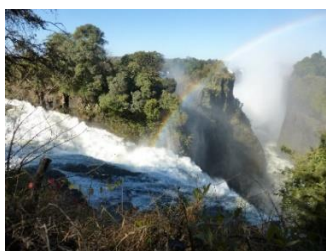
最初の宿泊はハイアットリージェンシーで17時に到着、ゆっくり旅装を解いて、ホテルのオープンキッチンで料理人も給仕人も陽気な明るいレストランで美味しいステーキの夕食でした。同行の上品な母娘さんとも親しくなり、もと幼稚園の先生だった添乗員さんとも仲良くなれた初日でした。

翌朝、2番目の国、ジンバブエへ。ビクトリア・フォールズ空港からキングダムホテルへ直行。世界遺産のキングダムの建築をモチーフにしている。ホテルの玄関から賑やかに迎えられる。ウエルカムドリンクも味わったことがない不思議な美味しいジュースです。ジンバブエ側の滝へ行く準備をして再集合。



1885年に探検家デビット・リビングストンが発見し、母国英国女王にちなんで命名した。

南米のイグアス、北米のナイアガラと共に世界3大瀑布です。1989年、世界遺産に登録された。



バルコニーで濡れたものを干す。三連泊だからこそこのゆとり旅。夕食はショーを楽しみながらバイキング。

もう4日目。一路国境を越えてボツワナのチョベ国立公園へ。

サンベジ川の上流にあたるチョベ川沿いに広がる、約一万キロ平方メートルの広大な動物保護区です。

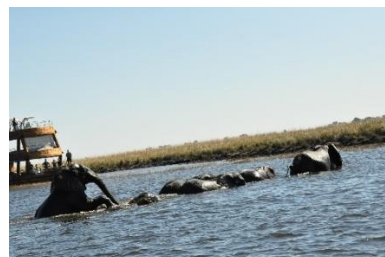


4WDに乗ってよいよ出発！

赤茶けた大地

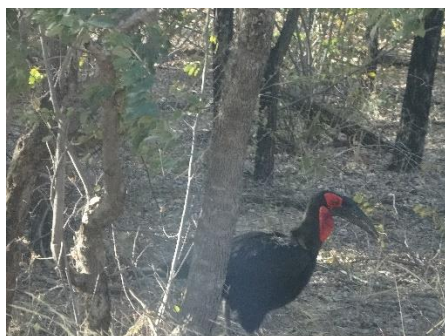
車のすぐそばにインパラが沢山

います。とてもかわいいです。乾燥期なので動物がよく見えるそうです。現地ガイドが日本語で「象」とか「キリン」とか教えてくれます。現地ガイドは視力がいいです。添乗員とお嬢さんは望遠鏡でよく発見します。まじかに見る動物は思いがけないポーズを見せます。水を飲むときのキリンの足の形や象の群れが子供象のお尻をおして川を渡る様子とか、感心しました。途中安全な場所でお茶タイムがあり、夫はガイドとむりやりお相撲をしました。



午後はボート

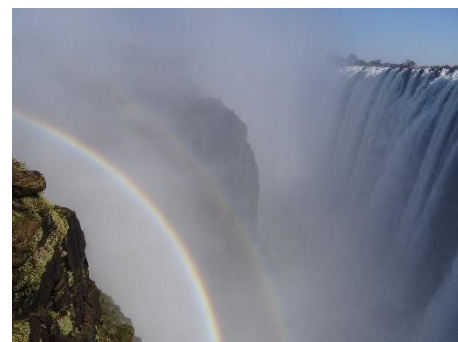
サファリも楽しみました。明日は旅の中日で午前中はザンビア側からの滝を見に行きます。午後は夫がジップラインをやりたいと急遽旅行会社へ予約しに行くことになりました。そばにバウバウの木もあるので見学しました。バウバウの木も種類があるそうで「星の王子様」のイメージと違います。ホロホロ鳥食べました。ゾウやシマウマも道路を歩いています。サルは車の屋根に上ります。夕食後、庭に出て天の川と南十字星を添乗員に教えて貰いました。肉眼で見えました。感動！



旅の中日はゆっくり日、国境を越えてザンビアへ。



国境は橋の上の真ん中、財政破綻して使用できなくなった高額紙幣を売る人、荷物を頭にのせて運ぶ女性、長い線路だが列車は3日間一度も見ることにはなかった。



ザンビア側は水量が多い。私は濡れた道に滑ってしまい、現地ガイドに手を引いてもらって濡れない場所まで「スロー、スロー」といわれ続けた。ホテルでの昼食はコース料理だが5つの中から好きなものを頼むことに。すると全員ちがうものを注文しました。入浴し、洗濯物もベランダに干して2時に私たちだけがジップラインに出かけました。勿論、送迎付きです。場所は国境の渓谷です。私はカメラマンです。



両手に番号を書かれて渓谷を300メートル下り、いよいよです。帰りは迎えの人が来て、元の場所へ戻ります。眼下は溪流です。場所が場所だけにハラハラでした。

夕食は市内のレストランで野生動物のバーベキュー“ボマディナー”です。入り口で顔にペインティングされ、民族衣装を貸してくれます。大勢の人がいます。全員に太鼓が渡されリーダーのリズムに合わせて。組別対抗戦もして楽しかったです。

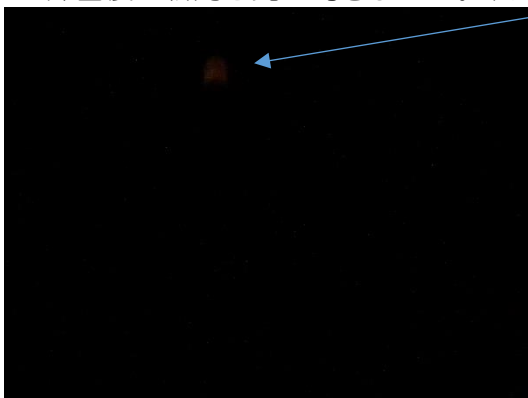


野生動物ですが美味！



今夜は皆既月食です！

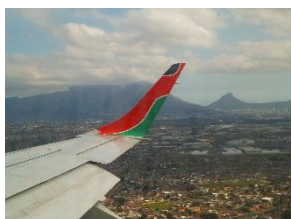
食事を終えて空を見上げたお嬢さんが「エー、なになに、月が、皆既月食？」 **赤い満月！** 帰国後の新聞を見て驚きました。私が日本時間で撮影したのと10分程度の差で撮影された同じ月の写真



が掲載されているのです。アフリカとの時差マイナス7時間をひくと、私たちがレストランを出た時間です。私はネットで検索しました。南半球と北半球の月は同時にみえるのか？ 同じ疑問を持つ人がいることが解りました。皆既月食は月さえ見れば地球上どこでも観測できる、ただし欠け方はちがうということです。私たちは偶然皆既月食を見ただけで、欠けはじめからはみていません。ホテルに戻る人工の光のない道で大きな星をしばし見上げました。若い人が一緒だから気が付いた天体ショーでした。

6日目、通常は乗り継ぎ一日がかりの移動のところを直行便だと3時間10分でケープタウンへ。

現地ガイドが日本人女性です。20年前に横浜市二俣川から御主人と共に移住したとのこと。日本の新聞でも「深刻な水不足」と書かれていました。ホテルのグレードに関係なく、バスの栓はありません。シャワーの水量はふつうですが大型ショッピングセンターでは、一か所だけしか水が出ないところもありました。地球温暖化の影響です。



市内観光をしました。カラフルな家並みは最初のころの移民街で観光客に人気がありますが、現在は治安が悪く車窓からみただけです。ホテルは国際会議場近くのウエスティンケープタウンです。玄関からロビーまでレッドカーペットが敷かれました。スターでも来るかと期待したのですが着飾った若者たちでした。この時期卒業式で高校生がパーティーをするそうです。みんな白人でした。EUの人達が祖国より、物価が安いというのでこちらで商売する人が増えているそうです。現地の人は朝から仕事を求めて、行列しています。治安が悪いのでホテルから出ないように注意されました。



気持ち良いドライブです。冬なのに花が咲いています。温暖化です。白い波のようなものはプラクトンです。午後からウオーターフロントに戻り、テーブル湾ミニクルーズですが、ここだけは一般の人も一緒に庶民的なものでした。サンフランシスコと同じ雰囲気です。



夕食は繁華街のレストラン、会計が間違っているようですが、店は納得せず、計算が苦手。

アフリカペンギンは小型、生息数減少



かの有名な喜望峰へ



ケープポイントと、アフリカ大陸最西南端の喜望峰。小さいときに聞いた懐かしい名前、到達！

いよいよ、8日目、観光最終日です。10時半出発。郊外のワイナリーに行きます。アフリカワインは安くておいしいと評判だそうです。葡萄の木の中に麦が植えてあるのが特徴です。



素敵な環境にあるワイナリーを見学し、貴重なワインの試飲も5種類しました。昼食も美味しかったです。この後、カーステンボッシュ植物園に行きました。花の季節は10月からとガイドブックにありますので期待しないで行きました。が、見事に咲いていました。美しい鳥も、蝶々も。





ミミズクです。お昼寝中。顔を見る為にグルット回りたいのですが、ガイドに留められました。耳がついているからみみずく。

沢山、写真がありすぎて
載せきれません！
癖になる南部アフリカ
です。